

患者等搬送乗務員定期講習

【補完事前学習テキスト】

体位管理



長野市消防局

1

学習目標

- 1 体位の種類と体位選定上の判断要素について理解・確認すること
- 2 体位管理の留意事項について理解・確認すること
- 3 保温実施上の留意事項について理解・確認すること



2

1 体位管理要領

体位管理とは
どのようなものですか？



3

体位管理とは、傷病者に適した体位(姿勢)を保つことによって、呼吸・循環機能を維持し、苦痛を和らげ、症状の悪化を防いだり、軽減することを目的とした手当です。



4

2 体位の種類と判断要素

(1) 体位の種類

傷病者の搬送に用いられる体位にはどのような種類がありますか？



5

仰臥位(ぎょうがい)

背中を下にして寝かせた水平な体位です。

適応症例

- 1 心肺蘇生が必要な傷病者
- 2 身体に多くの傷があるとき
- 3 手や足に傷があるとき
- 4 症状が複合し、疾病の原因が分からない傷病者の一般的な体位



6

回復体位

横向きに寝かせた体位です。

適応症例

- 1 反応はないが、普段どおりの息をしているとき
- 2 嘔吐をしている、又は嘔吐が予想されるとき
- 3 妊婦(左を下側に)
- 4 中毒時(左を下側に)



7

腹臥位(ふくがい)

腹ばいで、顔を横を向かせた体位です。

適応症例

- 1 嘔吐をするとき
- 2 背部に傷があるとき



8

膝屈曲位(ひざくつきょくい)

仰臥位で膝を立てた体位です。

適応症例

- 1 腹部に外傷があるとき
- 2 腹痛(急性腹症)があるとき



9

半坐位(はんざい)

仰臥位で頭側を少し高くした体位です。

適応症例

- 1 脳血管障害が疑われるとき
- 2 頭部外傷があるとき
- 3 胸部から上位に損傷があるとき



10

ショック体位(足側高位 そくそくこうい)

仰臥位で足側を15度程度高く(15~30cm)した体位です。

適応症例

- 1 脳貧血、失神、ショック等のとき**
- 2 下肢の損傷があるとき**



11

坐位(ざい)

座った状態です。

適応症例

心疾患、喘息等による呼吸困難があるとき



12

(2) 体位選定上の判断要素

体位の選定に当たっては、何を基準に判断しますか？



13

体位の選定に当たっては、傷病者が最も楽だと希望する姿勢を原則としますが、主訴及び下記の症状を観察し、総合的に判断します。

- | | |
|------------|-------------|
| 1 意識の状態 | 6 損傷(出血)の部位 |
| 2 呼吸の状態 | 7 麻痺の有無 |
| 3 顔色の状態 | 8 痛みの有無 |
| 4 皮膚体温の状態 | 9 医療処置継続の状態 |
| 5 嘔気・嘔吐の有無 | |



14

(3) 体位管理上の留意事項

体位管理を行う上で気をつけなければならないことは何ですか？



15

- 1 傷病者がどうすれば楽になるかを聞きながら、傷病者に苦痛を与えない安定した体位とする。
- 2 傷病者の呼吸が楽にできるような体位とする。
- 3 受傷部位が安静になるような体位とする。
- 4 出血部が止血でき、全身の血液循環が障害されない体位とする。



16

(4) 体位変換時の留意事項

体位を変換するときに気をつけなければならないことは何ですか？



17

- 1 事前に傷病者に説明し、痛みや不安を与えないようにする。
- 2 家族、関係者等に協力を求め、安静かつ安全に行う。
- 3 体位を変換することにより、二次的損傷を起こさないようにする。
- 4 容態が悪化したときは、早期に体位変換し応急手当を実施する。



18

3 保温

(1) 保温の原則



19

保温とは、人工的に熱を加えることなく、傷病者自身の適正な体温を保つことをいいます。

保温は、保温性のよい材料を用いて、下に厚く、上に軽く傷病者に負担のかからないように行うことが大切です。



20

(2) 保温の対象となる状態とは



21

熱中症など体温が異常に上昇しているとき、又は本人が拒否したとき以外は、原則として毛布等を用いて保温を行います。

特に悪寒、体温低下、ショック症状(顔貌蒼白、冷汗、脈拍微弱、浅く速い呼吸、四肢冷感など)を認めたときには積極的な保温が必要です。



22

(3) 保温実施上の留意事項

保温を実施する上で気をつけなければならないことは何ですか？



23

- 1 意識がある傷病者に対しては、保温の効果を確認するとともに、元気付け、安心感を持たせるように配慮する。**
- 2 傷病者が楽な体位で保温を行うとともに、過度の圧迫感を与えないようにする。**
- 3 濡れた衣類は脱がせ、身体が濡れている場合はタオル等で水分を除去してから保温を行う。**
- 4 毛布等は傷病者の身体の上に掛けるよりも、下に多く敷き接地面からの放熱を防ぐようにする。**
- 5 副子固定の手当、創傷処置等を施した部位は、視認できるようにしておく。**

24

重要な部分は覚えられたでしょうか？

ポイントをまとめてみました。



25



まとめ

1 体位の選定に当たっては何を重要視する？

傷病者の訴え(最も楽だと希望する姿勢を聞き、苦痛を与えない安定した体位とする。)

2 体位変換する場合に、注意すべきことは？

- ・ **事前に説明し、痛みや不安を与えない**
- ・ **安静かつ安全に行う**
- ・ **動かすことによって二次的損傷を与えないようにする**
- ・ **容態が悪化した場合は、早期に応急処置を行う**

26

3 保温を行う上で注意しなければならないことは？

- ・ 保温効果を確認するとともに、元気付け、安心感を持たせるように配慮する
- ・ 傷病者に楽な体位で保温し、過度の圧迫感を与えない
- ・ 濡れた衣類は脱がせ、身体が濡れている場合はタオルで水分を除去してから保温する
- ・ 毛布等は身体の下に多く敷き、接地面からの放熱を防ぐようにする
- ・ 創傷処置がされている部位は視認できるようにする

27

**以上で、事前学習は終了です。
お疲れ様でした。**



28